

NACSIS-CAT/ILLの現状

平成20年度 NACSIS-CAT/ILLワークショップ
平成20年12月3日

国立情報学研究所 学術基盤推進部
学術コンテンツ課 図書館連携チーム
細川聖二

- NIIアクションプラン(書誌ユーティリティ
課題検討プロジェクト)
- 次世代目録(次世代目録所在情報サー
ビスの在り方について)

直近の問題点の解決

□ NIIアクションプラン

- 書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトで示された問題点の解決

□ 次世代目録

- 中長期的な視点での目録所在情報サービスの検討

□ 発足と活動

- 「国公立大学図書館協力委員会常任幹事館と国立情報学研究所(NII)との業務連絡会」のプロジェクト
- H16.9-H17.10

□ 何故？

- 基本理念「共同構築」「学術情報資源の共有」の衰退
- 利用者サービス低下、図書館への信頼の低下が懸念

□ 背景

- 人員削減、業務統合
- 「共同構築」「資源共有」理念の認識がない参加館の増加

6つの対策(応急策)

1. NACSIS-CAT/ILL運用ガイドライン
2. 外注のための仕様書モデルの提示
3. 研修の強化と資格・認定制度の提案
4. 図書書誌レコード調整方式の改善
5. 雑誌所蔵更新への強制力
6. 図書館評価のための基礎的数値の開示



報告書・経緯

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/kadaipt.html>

□ 目的

- NACSIS-CAT/ILLの趣旨の周知徹底

□ 対応


- 2007年のNACSIS-CAT/ILLワークショップで議論
- 運用ガイドラインの素案を検討中

□ 目的

- 「外注のための仕様書モデル」を提示し、外注に際してCATのデータの品質を維持する。

□ 対応

- 「目録外注仕様書モデル」の公開(2008.3)

- 
- 目録外注仕様書モデルの活用
 - その活用結果のフィードバック

□ 目的

- 目録システム関連の講習会・研修の見直しと強化の必要性および具体的方策を検討する。

□ 対応

- 「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG」を設置
- 「最終報告書」を公開(2007.3)

□ 現状の取り組み

- セルフラーニング教材の充実
- 講習内容の改善
- 講習会講師の育成
- 目録業務のリーダー育成
- スキル向上のための環境づくり

□ 目的

- 図書レコードの調整方式を見直し、新しいレコード調整方式 → レコード調整にかかる負担の減少

□ 対応

- 「NACSIS-CATレコード調整WG」を設置
- 応急策の提示
 - レコード調整連絡の改善
 - コーディングマニュアルの見直し
 - 運用注記の定型化

□ 成果

- 以前と比較すれば、負担は減少した？

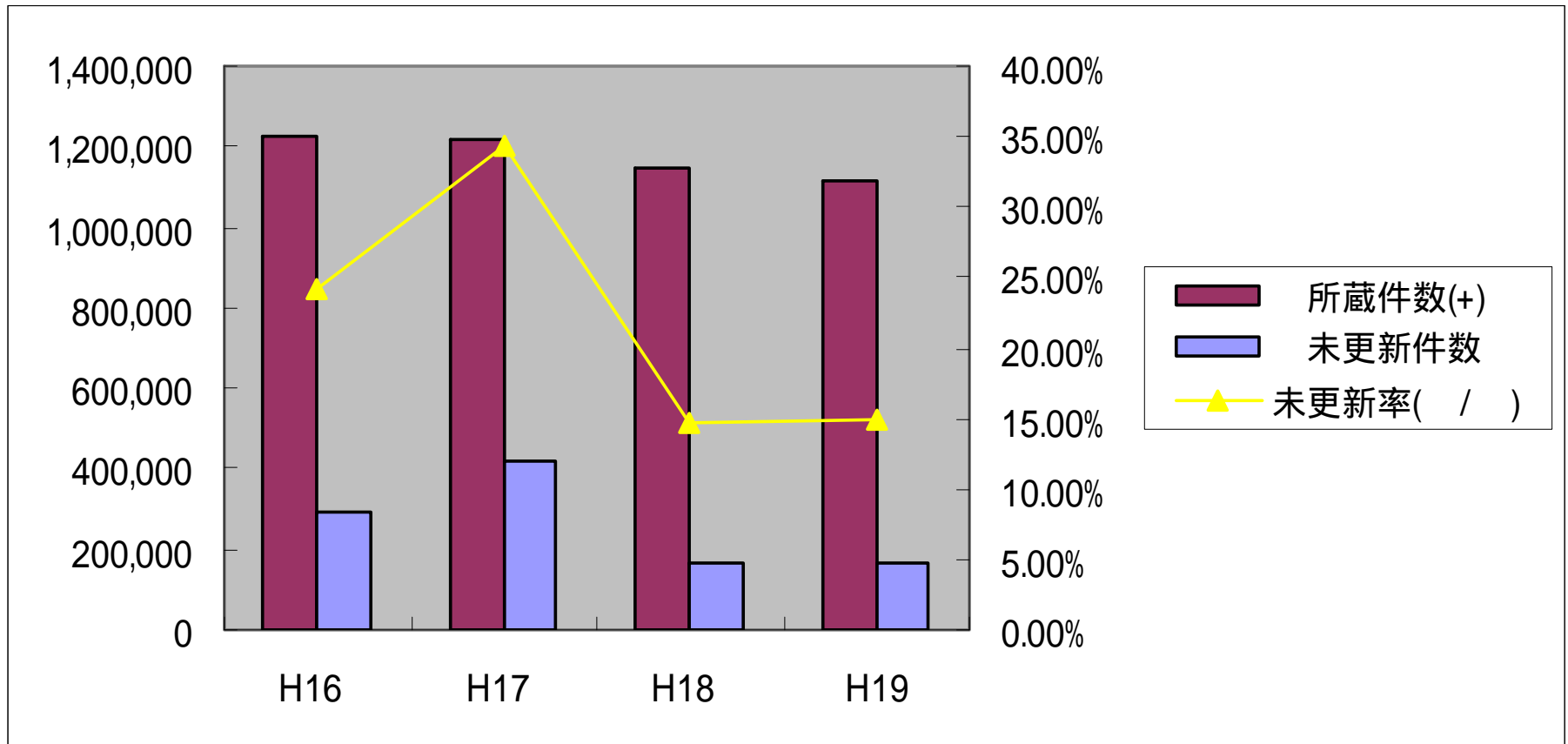
□ 目的

- 所蔵更新キャンペーンの実施

□ 対応

- 「NACSIS-CAT全国雑誌所蔵データ更新作業」(2006)
- 「継続所蔵・未更新所蔵リスト」の送付による雑誌所蔵更新の促進(年1回)

雑誌所蔵の未更新率



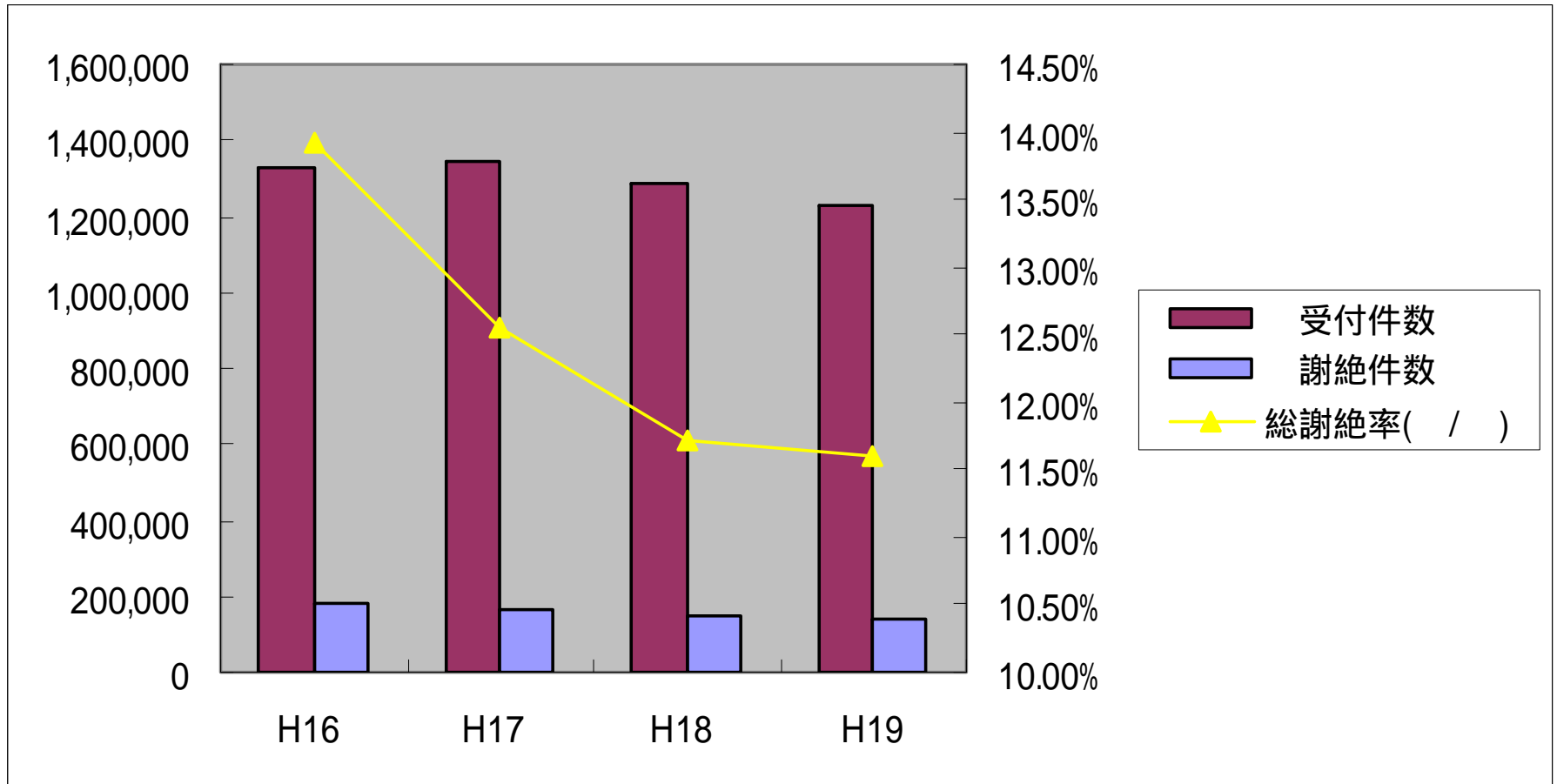
□ 目的

- 図書館評価のための基礎的数値の開示
 - 実体の把握
 - 自己点検・自己評価

□ 対応

- 「NACSIS-CAT/ILL業務分析表」の送付
(年1回)

NACSIS-ILLの謝絶率



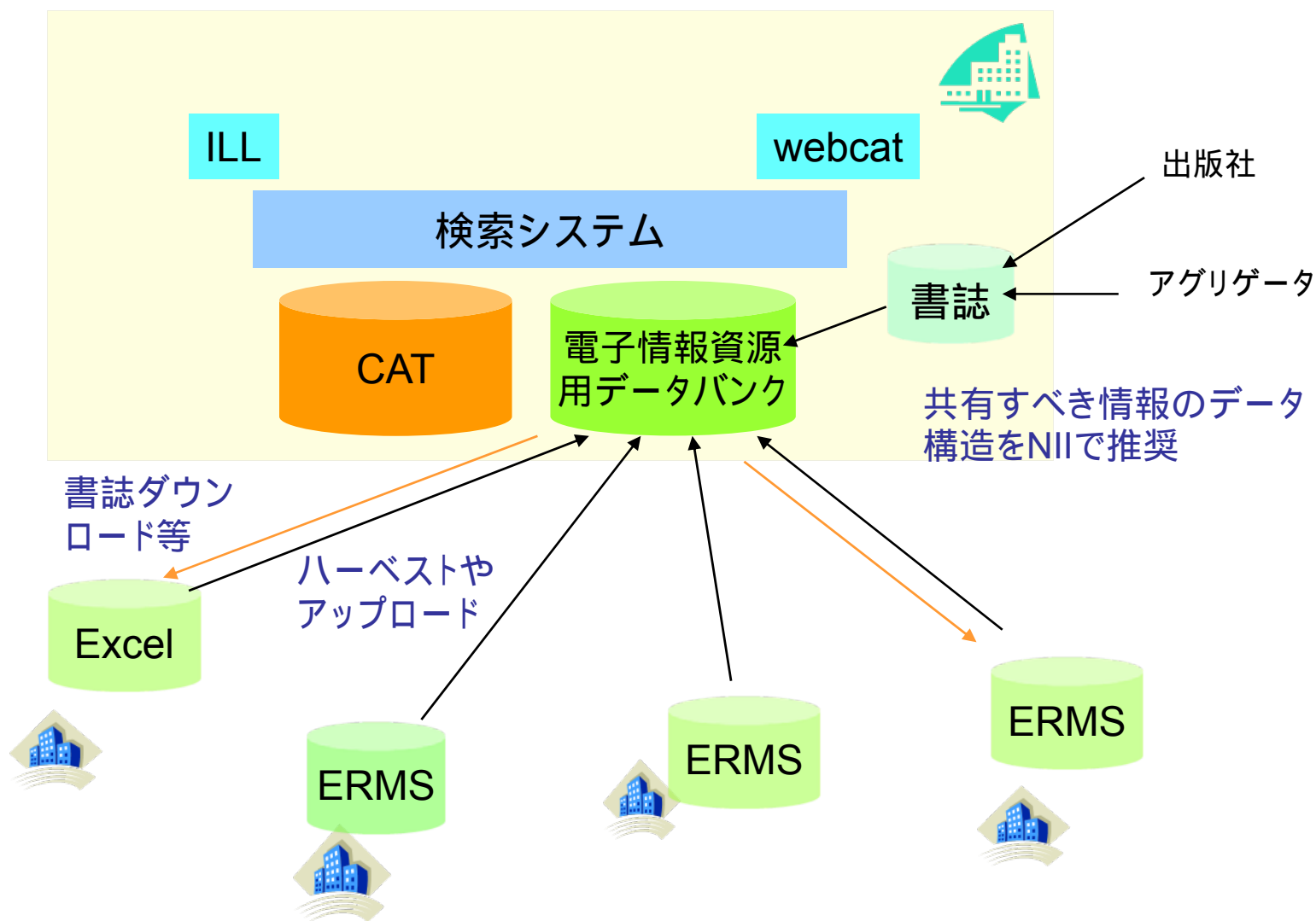
□ 次世代目録所在情報サービスの在り方

- 中長期的視点から今後の在り方(方向性)を検討
- 図書館連携作業部会次世代目録WG
 - 『次世代目録所在情報サービスの在り方について(中間報告)』(平成20年3月)
- 中間報告での3つのテーマ
 - 資料、とくに電子情報資源への対応
 - システム、とくにデータ構造とAPI
 - 運用、とくに外部書誌データの活用(発生源入力)と共同分担目録方式の最適化
- 最終報告(平成21年3月予定)

- NACSIS-CATに電子情報資源の入力が進まない

- 新しい資源発見システム → 電子情報資源データバンク
 - 出版社、アグリゲータ、書誌作成機関から提供される書誌データを活用
 - 各参加館のアクセスデータ(ERMSなどから)を格納
 - NACSIS-CATと同時に検索可能

電子情報資源管理のモデル案



ERMS導入は個々の機関の判断

□ ERMS実証実験

■ 目的

- ERMSの日本における導入可能性の検討
- 次世代目録所在情報サービスにおける電子情報資源の取り扱い検証

■ 実証用システム

- Verde (Ex Libris)
- 360 Resource Manager (Serials Solutions)

■ 実験期間

- 平成19年度～20年度

■ 参加機関(*オブザーバ機関)

- 北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、慶應義塾大学*、早稲田大学*、大阪市立大学、札幌医科大学*、農林水産研究情報センター

■ 報告書

- 19年度報告書

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/erms_report_h19.pdf

- NACSIS-CAT特有のデータ構造 = データ交換等に不向き
- 目録規則、メタデータスキーマなどの動向
 - FRBR、国際目録原則、ISBD改訂、RDA、NCR、MARCXML、MODS ...
- 当面は変更なし。MARC21などでのデータ出力機能を検討

- 現在のインターフェイス:
CATP, Webcat, Webcat Plus
- Webの最新技術を用いたAPI公開要求の高まり
- 提供範囲、提供内容、アクセス制限などを考慮しながら、実験的に開発予定

- MARCからの直接入力
- 主題データの充実

□ 参加館の多様化

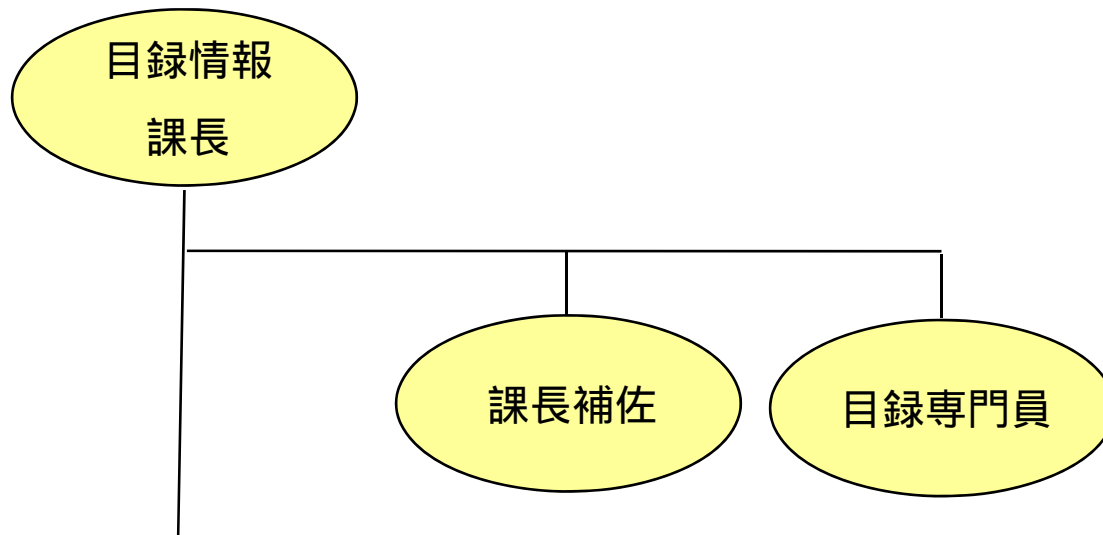
- 書誌レコードの品質のばらつき
- 取り組みの差

□ 従来の共同分担方式 → 現状に合わせた共同分担方式の模索

- 目録センター館
- インセンティブモデル
- 参加機関のレベル分け

NACSIS-CAT/ILLの過去の運用体制

事業部

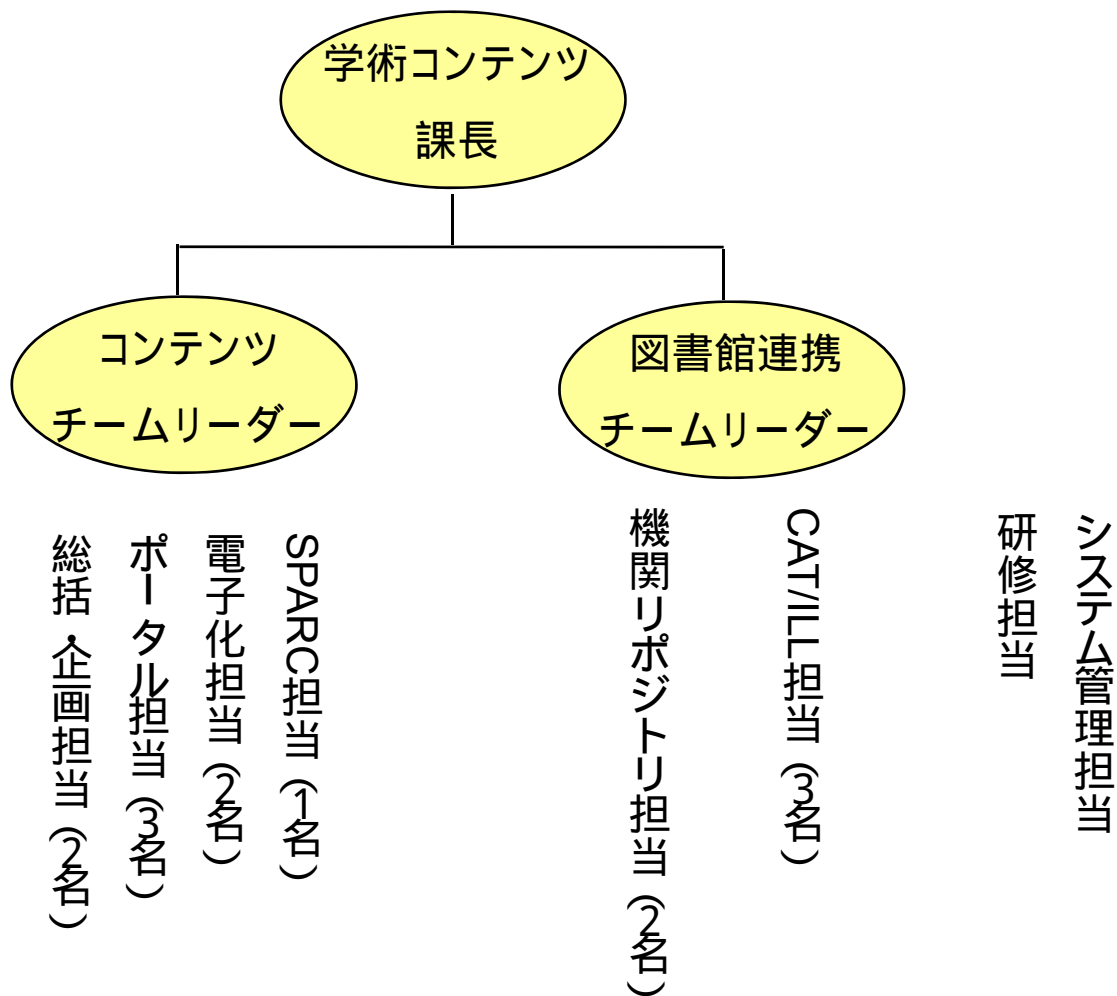


相互協力係(2名)
雑誌目録情報係(4名)
図書目録情報係(4名)

共同利用第一係
指導第一係
システム管理係
システム業務係

NACSIS-CAT/ILLの現在の運用体制

学術基盤推進部



- 10年前：常勤職員 + 非常勤職員
- 現在：常勤職員 + 業務委託 + 派遣職員

□ 10年前

目録情報課
13名

非常勤職員
22名

□ 現在

CAT/ILL担当
3名

委託業務
14名

派遣職員
1名

□ 業務の安定・事業の合理化

□ 業務委託

- 管理コストの削減
- 業務内容の明確化
- 見かけの人件費縮小
- 人材の確保

□ お問い合わせ先

学術基盤推進部学術コンテンツ課

図書館連携チーム(CAT/ILL担当)

catadm@nii.ac.jp